



認知症予防のための運動「ログニサイズ」

急速に高齢化が進む中、
支援が必要な高齢者が増える一方で、
高齢者に社会の担い手となってもらう
ことが期待され、支援の場や地域で
活躍ができるような
環境を整備していくことが
求められています。

そこで、必要な介護サービスを
身近に利用できる
地域包括ケアシステムの構築、
認知症の人などへの総合的な支援、
健康で生き生きとくらせる
しくみづくりに取り組み
高齢者が住み慣れた地域で安心して
元気に、生き生きとくらせる
社会の実現をめざします。

▶ 高齢者が安心して元気にらせる地域づくり

▶ 高齢者の健康・生きがいがづくり



具体的な取組み

A 地域包括ケアシステムの構築

- いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、医療、介護、生活支援などのサービスを一体的に提供する地域包括ケアシステムを構築するため、その拠点となる地域包括支援センターの支援などに取り組みます。
- 高齢者が安心してらせるよう、「健康団地」の取組みや、高齢者から子どもまでの多世代が支え合いながら生活できるまちづくり、バリアフリーのまちづくりを推進するとともに、サービス付き高齢者向け住宅などの多様な住まいの普及に取り組みます。また、高齢者の状況に応じたサービスが受けられるよう、特別養護老人ホームなどの介護保険施設の計画的な整備を進めます。
- 介護サービスの提供に必要な介護人材の確保や資質の向上を図るため、福祉人材センターによる就業支援や養成研修の実施、外国人材の養成などに取り組むほか、介護職員の負担軽減に資する介護ロボットを普及します。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
地域包括支援センターの機能強化などへの支援 実施主体 県				
	地域包括ケア会議や職員研修の実施などによる支援			
高齢者が安心してらせるまちづくりの推進 実施主体 県、市町村、民間				
	「健康団地」の取組み、サービス付き高齢者向け住宅の普及など			
介護人材の養成や就業支援など人材の定着・確保の促進 実施主体 県				
	就業支援、研修による養成、介護ロボットの普及などの推進			

B 認知症の人や家族などに対する総合的な支援

- 認知症の早期発見と適切な医療の提供のため、かかりつけ医の支援や関係機関との連携を担う認知症サポート医の養成や、認知症疾患医療センターの増設を図るとともに、認知症の人が安心してらせるよう、認知症コールセンターなどでの相談支援や、成年後見制度の利用支援など権利擁護のしきみの充実に取り組みます。
- 介護に従事する職員や県民の認知症に対する理解を進めるため、介護職員などに対する研修の実施や、認知症サポーターの養成に取り組みます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
適切な医療の提供や相談支援などの充実 実施主体 県、市町村				
	認知症サポート医の養成、相談支援などの推進			
認知症に対する正しい理解の普及 実施主体 県、市町村				
	介護職員などに対する研修の実施、認知症サポーターの養成			

C 健康・生きがいがづくり

- 高齢者の健康・生きがいがづくりのため、経験を生かした就業やボランティア活動などの社会参画活動、2021年に本県で開催される「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」に向けたスポーツ・文化活動の支援を進めます。また、高齢者の健康維持のため、身体機能や認知機能の低下が見られる人や元気な高齢者に対して、認知症予防のための運動「コグニサイズ」*の普及など介護予防の取組みを進めます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
社会参画活動やスポーツ・文化活動などの健康・生きがいがづくり 実施主体 県、市町村				
	社会参画活動への支援、「コグニサイズ」などの介護予防の推進			
	ねんりんピックの開催準備		基本構想策定	

*認知(コグニション)+運動